

学校だより 11月号

平成 29 年 11 月 1 日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成

TEL 048 (548) 1004
FAX 048 (547) 1467
URL <http://koya-e.konosu.ed.jp>
e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

「考えていることを伝えること、受け取ること」のむずかしさ ～コミュニケーションプロセスとは～

校長 渡辺 勝徳

10月には台風21号、22号が相次いで上陸し、学校生活に支障をきたしました。また、連続して発生したため、雨が降る日が多く、第2回資源回収は、雨の降る中での活動になってしまいました。ご協力いただいた児童や保護者、地域の皆様、ありがとうございました。

そんな10月ではありましたが、18日(水)に行われました陸上大会では6年生たちが精一杯の頑張りをを見せてくれました。「自己最高記録が出ました」「すごく頑張りました」「入賞しました」と報告に来てくれた6年生たちの顔は清々しく、陸上大会を通して少したくましくなったなと感じました。今年は、男子100m走で佐藤さん4位、新田さん8位、女子ボール投げで飯島さん3位、井上瑠さん7位、走り高跳びAで北野さん6位、男子400mリレーで3位の入賞がありました。おめでとうございます。また、当日、応援に来てくれた保護者の皆様、ありがとうございました。

さて、この頃つくづくコミュニケーションというのは難しいなと思います。相手に伝えるということ、相手から受け取るということ。学校では授業でもなんでも常にコミュニケーションが活動の中心になっています。言ったから相手に伝わっていると思っていることが多いです。しかし、そんなに簡単に伝わらないのだということを私たちは知る必要があります。私は以前、社会教育施設に勤めていました。そのときに、研修でコミュニケーションについての実習を体験し、「コミュニケーションにはコミュニケーションプロセスというものがある。話をする人(発信者)から話をを受け取る人(受信者)に100%伝えたいことが伝わることはない」ということを学びました。このことは私にとって、画期的でした。

以下に、どのように自分が話したことが話し相手に伝わっていくかをご紹介します。

(1) 記号化過程

まず、私たちは頭の中にある自分の伝えたいことを伝達可能な言葉や身振り、表情などに変換する必要があります。つまり、記号化するわけです。しかし、私たちは、自分の考えていることをすべて言葉にすることはできないし、うまく表現することも100%はできません。

(2) 送信過程

記号化された言葉などを話したり、動作にしたりすることを送信と呼びます。しかし、私たちは、自分が考えたことをすべて言葉にしているわけではありません。考える速さは話す速さの10倍以上だと言われるそうです。また、語調が強くなったり、語尾が弱くなったりして、十分に伝わらないこともあります。

(3) 受信過程

上記の過程から送られてきた聴覚的・視覚的な刺激を受け取るステップを受信と呼びます。しかし、受け取る側は、周囲が騒がしければ、聞き取れないこともあるでしょうし、頭の中で違うことを考えていて聞き漏らすこともあるでしょう。また、話しが長かったりして内容を全部覚えていなくて、印象に残ったことだけしか覚えていないこともあるでしょう。

(4) 解読化過程

最後に解読のステップがあります。これは、受信した記号を受信した人の過去の体験や自分の持っている概念、価値観、性格などと照らし合わせて、送信者の送ってきた話の意味を解読しようとする過程です。自分の持っている主観的な辞書に照らし合わせて解釈します。人によって話の伝わり方が違うのはこの過程でも起きているのではないのでしょうか？

簡単に紹介しましたが、それぞれの過程で、話が正しく伝わらない阻害要因があったことに気付いたと思います。だから、自分の言いたいことを100%伝えようとしても、それぞれの過程で少しずつ内容が伝わっていませんから、相手に届くときには、自分の言いたいことが何割引きかで伝わっているのだらうと思った方がいいと思います。逆に聞く側になった時には、全部受け取れませんから、**ちょっとでもわからないなという部分があったら、相手に質問する必要があります。**

このようなことが、夫婦、親子、友人、職場の仲間等の間で常に起こっています。そのことを常に念頭において、授業をしたり、コミュニケーションをとることが大事です。

(南山大学「平成19・20年度教育推進GP教え学び合う教育現場間の連携づくり 最終報告書 プロセスエデュケーションへの道」参照)